



遊びは大好評。
9月には水鉄砲づ
くりやささ舟づくり
を楽しみました。



みんなが いるから

レポート
交流
あれこれ

「NPO法人子育て支援はあばお 「はあばおのおうち」

一 日市場駅から徒歩3分ほ
どの所に、ヒノキ造りの

新しい家屋が見えます。就園前
の幼児とその親が気軽に集える
場所「はあばおのおうち」です。

「ここに來ると皆はつとすると
言うんです。だから『第2の居
間』と銘打っ

ています」と
話すのは、理

思い切って、形にしました。

理事長の小口茂子さん（71・三郷
明盛）。2年ほど前、もったい
なくて手が付けられなかったと
いう親の遺産を注ぎ、自宅の近
くの敷地に、この施設を建設し
ました。

小口さんが子育て支援にかか
わるようになったのは、今から
5年前。長年勤めた会社を65歳

この日はご近所の主婦を講師に、
おやきづくりに挑戦！子どもた
ちと一緒に生地をコネコネ。



で退職後、子どもを一時的に預
かるボランティア制度「ファミ
リーサポート」の会員となった
ことがきっかけです。そして、
その活動で目にしたのは、一人
で育児を抱え込み、個々に奮闘
しているお母さんたちの姿でし

た。小口さんら会員10人は、幼
児と親が安心して交流できる場
所の必要性を強く感じ、発足を
決意しました。

「お母さんの支援が、子育て
支援になる。母親が元気で頑張
って過ごせる環境づくりが何よ
り必要だと感じました」と小口
さんは話します。

施設は、平日の出入りが自由。

飲食やお昼寝も可能。主に会費
と賛助会員からの資金援助で運
営し、郷土料理を楽しむ企画や、
おじいちゃんとおもちゃづく

りなど、ユニークな
催しも多数開かれて
います。

「ちなみにここは宿泊もでき
ます。この前もお子さんがもう
大きくなるから最後の思い出に
楽しもうって、泊まっていきま
した」と小口さん。
型に縛られない、独自のアイ
デアで施設は活気づいています。
（取材・11月10日）

「たんぼぼキッズ

明 科南陸郷の小泉地区公民
館。毎月第2火曜日に、
子どもたちの元気な声が響きます。

たんぼぼキッズは、旧明科町
で行われた子育て支援の学習会
をきっかけに、平成16年から活
動開始。現在は明科地域を中心
に未就園児とその親子約40組が
集い、季節ごとの昔遊びや読み

やっぱ、心細いじゃんね。

聞かせ、お茶会などを楽しんで
います。運営は、子育て中の母
親ばかりでなく、民生児童委員、
地区社協の役員、主任児童委員、
ご近所のお年寄り、過去の参加
者などが緩やかにつながり、活
動を支えています。

「顔を出してくれたり、鍵を
開けてくれたり、灯油を入れて
くれたり、声をかけなくても手
のあいた人が来てくれる」と話

すのはこの活動の立ち上げにか
かわった一之瀬丈子さん（56・
明科七貴）。地域のおおらかな
温かみを実感しています。

「中にはお茶会だけとんでき
てくれる人もいます」と、一之
瀬さんとともに活動を立ち上げ
た遠藤悦子さん（57・明科南陸
郷）。「昔も今も、お母さん同士
は仲がいいです。ただ、子ども
が少なくなってきた、それぞれ
の家が遠くなってしまった」と、
現代の子育て事情の変化を感じ

ています。

「月に一度、こうして集まる
機会があつていいと思う。くた
びれて、いじれて、子どもにあ
たつて…。やっぱ、みんな心細
いじゃんね」。

そう話す遠藤さんは、お母さ
ん同士が触れ合う姿を温かく見
守っています。

「お母さん同士が仲良ければ、
僕たちも仲良くやっていこうと

いうことになる

のでは。もし、子ど

も同士の問題が起きた
場合でも、親同士が顔

見知りだと、違うと思います」。

（取材・11月19日）

遠藤さん（左）と
一之瀬さん（右）。
穏やかな優しい笑
顔で取材に応じて
いただきました。



たんぼぼキッズの昔
遊びで完成した水鉄
砲。子どもたちの宝
物に。

「私も試行錯誤し
ながらやっています」と謙虚な小口
さん。はつらつと
した姿が印象的で
した。

